

1. 学ぶ内容

- ・災害時の連絡方法
- ・残すべき伝言の内容

2. ねらい

災害時、家族と連絡が取れにくくなることを理解し、万が一家族と離ればなれになってしまった時、あきらめるとなく色々な方法で家族と連絡を取ることを試みることができる知識を身につける。

3. 授業の流れ

- (準備) ①ワークシート「地震のときの連絡方法」を印刷しておく(全員に配布)
②おうちのそなえチェックシート「災害時の連絡」を印刷しておく(全員に配布)

実施の流れ	内容	ポイント
導入 (3分)	ワークシート「地震のときの連絡方法」を配る。	
	<p>災害時には「連絡が取りにくくなる」ということをイメージする</p> <p>災害時は、家族と普段のように連絡が取れなくなるということを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの[大地震のとき起こること]の部分を参照しながら、災害が起こると電話がつながりにくくなることを伝える。 ・たくさんの人が帰宅しようとして混雑するため、家族も自分もなかなか家に帰れないことを伝え、連絡を取り合うことの必要性を理解してもらう。 <p>※震災時の写真を見せると理解しやすく、有効です。</p>
展開 (10分)	<p>①災害時の連絡方法を考える</p> <p>電話が使えない時、どうやって家族と連絡を取り合うか考えてもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害が起こると、電話がつながりにくくなることを改めて伝え、それらに頼らない方法を考えてもらう(ワークシート[もんだい1]に記入してもらう)。その後、回答を聞き出しながら、「伝言を家に残すこと」が簡単かつ有効であることを伝える。
	<p>②伝言内容〇×クイズ</p> <p>災害時に家族にのこす伝言内容について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート[もんだい2]を使い、伝言として家族にどんなことを伝えたいか考えてもらう(解答欄に〇×をつけてもらう)。 ・答え合わせの際、「無事かどうか」「これから行く場所」「一緒にいる人」など、“自分の状況が簡潔に伝わる”内容にするということを教える。
まとめ (2分)	おうちのそなえチェックシート「災害時の連絡」を配る。	
	<p>③家族で決めておくことについて伝える</p> <p>家族で決めておくべき「連絡のルール」について伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・伝言以外にも家族と連絡を取る方法はあるが、どこで集合するか、伝言メモをどこに残すかなど、家族で決めておかねばならないことがあるということを伝える。 <p>※メモを残す場所は他人に知られず、かつ、家族が家に帰って来たときに一番に目につく場所=「玄関ドアの裏」がオススメです。</p>
	<p>④学んだことをおさらいする</p> <p>連絡方法について家族で日頃から話し合っておくように勧める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に知識を役立てるためには、日頃から家族で連絡方法を確認しておくことが大事だと伝える。 ・集合場所、伝言を残す場所など、チェックシートにある内容は、家族で決めておいて欲しいと伝える。

[中・高学年用ワークシート解説書]

[中・高学年用ワークシート]



地震のときの連絡方法



[大地震のとき起こること]

電話がつながりにくくなる

どうして？

- 地震で通信設備が壊れることがある
- 多くの人が電話を使う（家族が無事かどうか確認するため）

もんだい
1

家族と別の場所にいたとき地震が起きました。
電話が使えないとき、家族にどうやって連絡すればいいでしょう？

会いに行く／探しに行く／紙に書いて置いておく（伝言を残す）
／1回家に帰る

もんだい
2

お家に伝言をのこすとき、どんな内容がいいでしょう？
のこしたほうがいいものに○、そうでないものに×をつけましょう。

1. 晩ごはんにかレーを食べたこと (×)
2. 地震でケガをしなかったこと (○)
3. 地震がおきた時間 (×)
4. これから行く場所 (○)
5. お家の住所 (×)
6. 誰とっしょにいるか (○)

震災時の写真（公衆電話に行列ができている場面など）を見せるとイメージが伝わり効果的です。

子どもに分かりにくいようであれば、「電話の電波を飛ばす設備」など言い換えましょう。

必要に応じて、帰宅困難時の写真を見せ、簡単には家に帰れなくなることがあることも伝えると、リアリティが増します。

[ポイント]

- ・離れた場所にいる家族を心配させないこと。その後、無事に合流すること。
- ・そのために「無事か」「だれと」「どこへ」など必要なことを伝言に残す。
- ・時間があれば他にどんなことを残すといいか、子どもたちに聞いてみましょう。（「学校までの道のりで危ないところ」「家の中で立ち入ると危ないところ」など）

[低学年用ワークシート解説書]

[低学年用ワークシート]

地震のときの連絡方法

[大地震のとき起こること]

電話がつながりにくくなる

- どうして？
- 地震で通信設備が壊れることがある
 - 多くの人が電話を使う（家族が無事かどうか確認するため）

1 家族と別の場所にいたとき地震が起きました。
電話が使えないとき、家族にどうやって連絡すればいいでしょう？

会いに行く／探しに行く／紙に書いて置いておく（伝言を残す）
／1回家に帰る

2 お家に伝言をのこすとき、どんな内容がいいでしょう？
のこしたほうがいいものに○、そうでないものに×をつけましょう。

1. 晩ごはんはカレーを食べたこと (×)
2. 地震でケガをしなかったこと (○)
3. ほしいおもちゃ (×)
4. これから行く場所 (○)
5. 自分の誕生日 (×)
6. 誰と一緒にいるか (○)

震災時の写真（公衆電話に行列ができている場面など）を見せるとイメージが伝わり効果的です。

子どもに分かりにくいようであれば、「電話の電波を飛ばす設備」など言い換えましょう。

必要に応じて、帰宅困難時の写真を見せ、簡単には家に帰れなくなることがあることも伝えると、リアリティが増します。

[ポイント]

- ・離れた場所にいる家族を心配させないこと。その後、無事に合流すること。
- ・そのために「無事か」「だれと」「どこへ」など必要なことを伝言に残す。
- ・時間があれば他にどんなことを残すといいか、子どもたちに聞いてみましょう。（「学校までの道のりで危ないところ」「家の中で立ち入ると危ないところ」など）